

山口県立萩美術館・浦上記念館

H A G I |

HAGI URAGAMI MUSEUM MAGAZINE

萩

110

WINTER ISSUE

2024





展示室1〈浮世絵〉

きんだい びじん が けいふ
近代美人画の系譜
うきよ え にほん が
—浮世絵から日本画へ

【会期】2024年1月2日(火) — 2月4日(日)

明治時代、西洋から導入した新しい印刷技術の隆盛と同時に、伝統的な木版画にも、新たな分野が生じ、活気を持つようになりました。明治中期には木版特有の美が再評価され、雑誌の木版挿絵や小説の巻頭を飾る木版口絵が流行し、水野年方と尾形月耕が人気を博します。彼らをはじめとする挿絵画家たちは、日本画家としても活躍しました。日露戦争の戦争絵を最期に、錦絵は衰退の一途をたどります。しかし大正期、伝統的な木版技術による芸術的な版画をめざす“新版画”を創始した版元の渡邊庄三郎の元では、水野年方の弟子である鏑木清方の門弟たちが活躍し、浮世絵の水脈は保たれました。

今回は明治中期から昭和期までの木版美人画を展示し、浮世絵から日本画へと移り行く表現をご紹介します。



山本昇雲「いま姿 寒牡丹」明治42年(1909)

おすすめの作品

若い女性が読書の途中、肘をついて物思いにふけています。

牡丹のような薄紅色の花の裾模様に桐の五つ紋の付いた黒い振袖と、黒地に金の飛び紋の帯という、とても格式が高く豪華な衣装であることから、この女性の身分は高位の武家であると分かります。襟や帯には、空摺りで文様を立体的に摺っており、帯の生地は艶を表現するために、膠を多く含んだ墨が使われています。室内には江戸琳派風の銀箔を貼った楓図屏風が置かれており、調度品もとても上品で雅なものです。濃厚な彩色は、古き良き江戸を思わせませんが、人物の涼やかな顔の表現は、日本画に通じるものです。

本図は江戸時代の女性風俗を描いた15枚のシリーズの1図。絵師は水野年方の弟子で、日本画家の池田輝方。文部省美術展覧会や帝国美術院展で活躍し、浮世絵の系譜を継ぐ画家として高く評価されました。版元は二代目秋山武衛門(滑稽堂)で、明治後期から昭和期にかけて多くの木版画を出版しました。



池田輝方「江戸の錦 物思い」明治36年(1903)



展示室1〈浮世絵〉

浮世絵に見る明治の産業

だい にほんぶつさんず え —大日本物産図会—

【会期】2024年2月6日(火) — 3月10日(日)

日本各地にはさまざまな名産品があり、その生産を支えている人たちがいます。三代歌川広重(1842～94)が手掛けた「大日本物産図会」は、明治10年(1877)の出版当時に名産品とされた農産物、製造物の産出にたずさわる人々の様子を描いたシリーズで、

国内産業の発展を図ることを目的として開催された第一回内国勸業博覧会(同年8月21日～11月30日、於東京上野公園)に合わせて出版されました。

今回は、当館が所蔵する「大日本物産図会」シリーズのなかから、その一部をご紹介します。

おすすめの作品



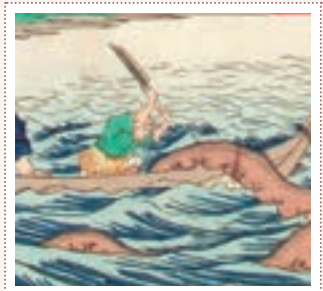
三代歌川広重「大日本物産図会 越中国鉄物細工之図 越中滑川大章魚之図」
横中判錦絵2丁掛、明治10年(1877)

❑ 越中(現在の富山県)の名産品は、鉄物細工(上図)と大蛸かなもの おおだこ(下図)でした。

↓ 迫力の龍!



すばやく刃物を振り上げて…
大蛸と漁師の戦い。



働き詰めじゃね。
休憩って大切。



命網を使っっての
危険な作業。
ヒヤヒヤします。



周防国(現在の山口県東南部)の名産品は、シイタケ❑ (上図)とイワタケ(下図)。キノコですね。

三代歌川広重「大日本物産図会 周防国香蕈製之図 同国岩蕈採之図」
横中判錦絵2丁掛、明治10年(1877)





展示室1〈浮世絵〉

江戸の絵本

【会期】2024年3月12日(火) — 4月14日(日)

人々の日常を題材とした風俗絵本、狂歌を添えた狂歌絵本、草双紙などの挿絵入りの読み物、絵の学習に役立てられた画譜や絵手本など…。絵を主体とした版本はさまざまにあり、それらは子供向けに作られたものばかりではなく、大人にも楽しめました。

今回は、絵手本として制作され、江戸時代後期から明治期にかけてベストセラーとなった葛飾北斎『北斎漫画』を中心に作品をご紹介します。

おすすめの作品

魚籃観音、巨大な鯉、背景の流水、それぞれの描き出す曲線が絶妙に融和しています。魚籃観音の魚籃とは、獲った魚を入れる籠のこと。魚の入った籠を手を持った姿で描かれる場合もあります。



葛飾北斎『北斎漫画』十三編、半紙本1冊、刊行年不明(初版は嘉永2年(1849))

巨大な鯉に続いて、こちらは巨大なフキです。秋田蓆と呼ばれ、出羽国(現在の山形県と秋田県)で栽培されました。葉っぱを雨傘代わりに使うとは…まるでトロミみたい。



葛飾北斎『北斎漫画』七編、半紙本1冊、刊行年不明(初版は文化14年(1817))



展示室8〈工芸〉

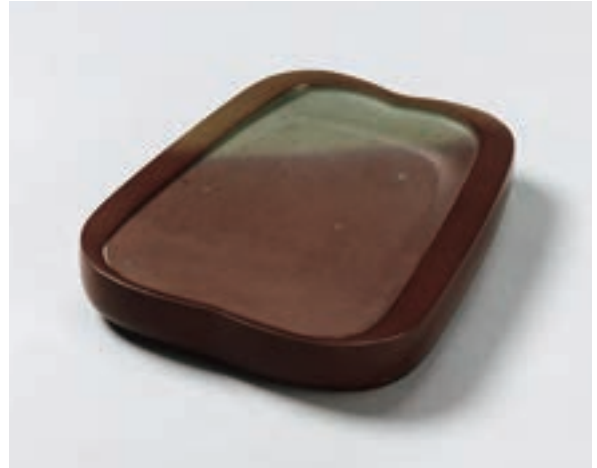
山口県の伝統工芸 II

【会期】2024年3月12日(火) — 6月23日(日)

伝統工芸は、先人から受け継いだ工芸技術をもとに、いまでも進化を続けるものです。かつて、日常の器や調度品は、手仕事によって作られたもので成り立っていましたが、社会の近代化にともない、ものづくりの機械化が進み、現代ではどの工芸分野も存続が厳しくなっています。

しかし、歴史を重ね^{つちか}培われてきたわざには、未知数の可能性があります。ものの機能を高めることや、美的表現においても引き継がれたわざをベースにして自由度を高め、目にしたことのない感動を生み出し続けていると言っても過言ではありません。

山口県では、さまざまにある工芸のうち「萩焼」と「赤間硯」のわざを無形文化財として指定し、保護しています。本展示会では、山口県ゆかりの作家による「赤間硯」に加え、国指定重要無形文化財「彫金」の保持者である山本晃の作品や、漆芸作品を展示し、この地域にしかない卓越したわざを紹介します。



堀尾信夫〈瓜研〉1985年 当館所蔵 撮影:山崎信一

おすすめの作品

赤間硯は、山口県で採取される赤色頁岩^{せきしょくけつがん}という石で作られた硯です。赤紫色が特徴で、その美しい色は他にはない魅力です。硯は、「使う」という点では陸や海と呼ばれる墨^{すみ}を磨り、ためる部分が大切ですが、その周りに彫り出された装飾^{そうじゆく}も見逃せません。

堀尾信夫の《瓜研》(上の写真の作品)は、縁を装飾的に彫ることによって瓜の形を表現しており、その形は作品名にもつながっています。また、装飾のほかにも、この作品で目を引くのは赤紫色のなかにさす青緑色の部分ではないでしょうか。赤間硯の素材である赤間石のうち、このような特徴をもつものは紫青石^{しせいせき}と呼ばれ珍重^{ちんちゆう}されています。



館鼻則孝 Distance

【会期】2023年4月8日(土) ~ 2024年3月24日(日)

SCHEDULE 令和5年度(1月~3月)

■ 休館日 ★ イベント ◆ ギャラリートーク

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31		
JAN	1月	2火	3水	4木	5金	6土	7日	8月	9火	10水	11木	12金	13土	14日	15月	16火	17水	18木	19金	20土	21日	22月	23火	24水	25木	26金	27土	28日	29月	30火	31水	
展示室1	普通展示(浮世絵): 近代美人画の系譜—浮世絵から日本画へ(1/2~2/4)																															
展示室2	普通展示(東洋陶磁): 陶の華 三彩(~4/14)																															
展示室3~6																																
展示室7	普通展示(陶芸): 十三代三輪休雪の陶(~6/23)																															
展示室8	普通展示(工芸): 山口県の伝統工芸I(~3/10)																															
特選鑑賞室	菱川師宣「よしはらの躰 高嶋見世先」(1/2~1/31)																															
茶室	舘鼻則孝 Distance(~3/24)																															
FEB	1木	2金	3土	4日	5月	6火	7水	8木	9金	10土	11日	12月	13火	14水	15木	16金	17土	18日	19月	20火	21水	22木	23金	24土	25日	26月	27火	28水	29木			
展示室1	※1 普通展示(浮世絵): 浮世絵に見る明治の産業—大日本物産図会(2/6~3/10)																															
展示室2	普通展示(東洋陶磁): 陶の華 三彩(~4/14)																															
展示室3~6																																
展示室7	普通展示(陶芸): 十三代三輪休雪の陶(~6/23)																															
展示室8	普通展示(工芸): 山口県の伝統工芸I(~3/10)																															
特選鑑賞室	磯田湖龍斎「雛形若菜の初模様 かくたはらや内れん山」(2/1~2/29)																															
茶室	舘鼻則孝 Distance(~3/24)																															
MAR	1金	2土	3日	4月	5火	6水	7木	8金	9土	10日	11月	12火	13水	14木	15金	16土	17日	18月	19火	20水	21木	22金	23土	24日	25月	26火	27水	28木	29金	30土	31日	
展示室1	※2 普通展示(浮世絵): 江戸の絵本(3/12~4/14)																															
展示室2	普通展示(東洋陶磁): 陶の華 三彩(~4/14)																															
展示室3~6																																
展示室7	普通展示(陶芸): 十三代三輪休雪の陶(~6/23)																															
展示室8	普通展示(工芸): 山口県の伝統工芸I(~3/10)															普通展示(工芸): 山口県の伝統工芸II(3/12~6/23)																
特選鑑賞室	鈴木春信「風流五色墨 長水」(3/1~3/31)																															
茶室	舘鼻則孝 Distance(~3/24)																															

※1 普通展示(浮世絵): 近代美人画の系譜—浮世絵から日本画へ(~2/4) ※2 普通展示(浮世絵): 浮世絵に見る明治の産業—大日本物産図会(~3/10)

★ イベント

お正月は美術館へ行こう!

①和太鼓演奏

【日時】1月2日(火) 10:30~11:00

【出演】大板山たたら太鼓同好会

【会場】玄関前広場

②ちよるとお正月

【日時】1月2日(火) 10:00~、11:00~、13:30~(各回20分)

【会場】エントランスロビー他

③ワークショップ 山口県の伝統工芸(赤間硯と徳地和紙)で書初め

【日時】1月3日(水) 10:30~、11:30~、13:30~、14:30~(各回30分)

【講師】日枝美穂(書家)

【会場】交流スペース

【定員】各回8名(予約優先、要当日の展覧会観覧券)

※予約はWEBで12月16日(土)から12月29日(金)まで受付

④令和6年の新成人と辰年生まれの方は入場無料、2日と3日は記念撮影&フォトプレゼント

【日時】1月2日(火)~8日(月・祝)

⑤記念撮影用フオスポットを設置

【日時】1月2日(火)~8日(月・祝)

⑥アート年賀状2024の作品展示

【日時】1月2日(火)~28日(日)

◆ ギャラリー・トーク

(担当学芸員による展示作品解説)

いずれも11:00~(30分程度)

◆ 1月13日[土] 近代美人画の系譜—浮世絵から日本画へ

◆ 1月27日[土] 陶の華 三彩

◆ 2月10日[土] 浮世絵に見る明治の産業—大日本物産図会

◆ 2月24日[土] 山口県の伝統工芸 I

◆ 3月 9日[土] 十三代三輪休雪の陶

◆ 3月23日[土] 江戸の絵本

※ギャラリートークへのご参加には観覧券が必要です。

※イベント詳細については美術館ホームページをご覧ください。

臨時の休館やイベントを中止・変更する場合があります。

詳しくは当館ホームページをご覧ください。



公式HP

【お問い合わせ】TEL 0838-24-2400

交通アクセス

【新山口駅から】

■ 直行バス「スーパーはぎ号」(約60分)で

萩-明倫センター下車、徒歩約5分

■ 防長バス(約90分)で

萩バスセンター下車、徒歩約12分

【山口宇部空港から】[萩・石見空港から]

■ 萩近鉄タクシー(乗合タクシー)

約70~80分(利用前日までに要予約)

【JR山陰本線】

■ JR萩駅から萩循環まあるバス(西回り)約30分

■ JR東萩駅から萩循環まあるバス(東回り)約30分

■ JR玉江駅から徒歩約20分

【自動車】

■ 「中国自動車道」美祿東JCT経由、

「小郡萩道路」絵堂ICから約20分

■ 「山陰自動車道」三見ICから約10分、国道191号沿い



最新情報は公式SNSで